

京ちゃん、大学へ

人にはいろいろな出会いがある。私が宮本憲一先生に最初に出会ったのは、一冊の本、先生の『社会資本論』である。一昨日レポートしたように、京ちゃんとは新聞をつうじて出会った。新聞で京ちゃんを知ってから3ヶ月ほど経ってから、卒業生からメールが届いた。障害をもつ子どもの「集い」が名市大病院ホールで開催されるので、学生らに案内させてほしいという依頼であった。最初よく分からなかったが、添付されたチラシを見ると、京ちゃん親子が報告するとあった。京ちゃんについて新聞コピーで学生と議論していた最中だったので、偶然とはいえ依頼に驚いた。講義前に案内してもらおう機会を調整して、11月5日(火)午後1時からの3限だと、京ちゃんご家族に話してもらえることになった。

ここで初めて京ちゃんに直接会うことができた。まずは学部棟1階会議室に案内して、ご両親と挨拶したあと、2つの講義の教室に案内した。阪井教授の講義では、じっくりとお父さんから集い、京ちゃんのことなどを話してもらえた。お父さんの話から、私も京ちゃんのことを詳しく知った。初対面で緊張していたこともあり、残念ながら京ちゃんにうまく話しかけられなかった。京ちゃんは初めての大学訪問をどう感じたのだろうか。



写真は「京ちゃんブログ」から撮ったものである。ブログの写真をデジカメで撮り直したので、写りはあまりよくない。じつは集いには出張の関係で行けなかったのが、ブログからの引用となる。集いは「障害者差別解消法と教育」というテーマであり、大谷恭子弁護士の講演のあと、お父さんが京ちゃんの学校生活について語った。ブログに詳しく紹介されているが、集いの前日に行われた学芸会についての話が興味深い。



「学芸会については、先生と介助看護師さんの連携の素晴らしさ、クラスメイトと京香本人が一体となった内容、親ではなくとも感じたであろう感動---を参加された150名の方に伝える事ができたと思います。この内容は、通常の学級で1年半過ごしたからこそその学校での経験の積み重ね、他の子供たちとの関わり方の試行錯誤があってこそ感動する学芸会だったと感じています。」

この感動する学芸会については、のちに映像で見せてもらうことができた。京ちゃんの役は「くらげ」であり、クラスメイトたちの力を借りながら、クラスに融けこんで演じていた。映像を見て、心のなかで「えいぞー」と京ちゃんに拍手を送った。

(2014年12月3日)